

「飯舘村の母ちゃんたち」通信 No18

2023年3月発行

3月から始まる公開、是非劇場を満員にしてください

岡戸 良子（映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会代表）

映画「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」が、いよいよ3月11日～17日までの限定1週間ではありますが、ポレポレ東中野にて上映公開が始まります。映画の完成と劇場での公開が、皆さまからの募金とご支援のもとできますことを、改めて心からお礼申し上げます。

これから全国5か所での劇場公開が予定されております。まずは東京での上映を成功させ、公開できる劇場を増やしていきたいと思っております。そして劇場上映が終わった後は、支援者の皆さまの地域でも自主上映会を開催していただけたらと願っております。

2作目の映画「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」は、2011年3月11日に起きた東日本大震災、福島第一原発事故当時から追いつけてきた牛飼いの3人の母ちゃんたち12年間の記録です。福島県飯舘村は震災直後、福島第一原発事故による放射能汚染により自然環境破壊が起こり、そこに住む人々の生き方そのものが翻弄されました。映画に登場する3人のベこやの母ちゃんたちとその家族たちの生き方も一変しました。残念ながら、先祖が心を込めて豊かな大地になるように何十年もかけて開墾した土地は、原発事故後、一瞬のうちに放射能汚染地帯と化し、自然の恵みと共に暮らしてきた豊かな営みは完全にできなくなりました。

そして飯舘村のブランドとして育てていた

「ベこたち」は、汚染された牧草を食することもできません。牛乳を出荷することもできない酪農家の大きな苦悩がそこから始まりました。しかしこの最近3年の大変に厳しいコロナ禍でも、お母ちゃん達と古居みずえ監督の心の交流は変わらずに続き、お母ちゃん達の前を向いて生きていこうとする生きざまが、監督の映像とお母ちゃん達との語りでも自然に描写されています。困難な状況の中でも本来人間が持っている乗り越える力、人間力をお母ちゃん達から感じ、彼女たちの逞しく明るく生きる姿勢に私たちが勇気づけられます。日本一美しい村飯舘村は、原発事故後の安全安心は完全に失われてしまいましたが、自然の四季の美しさや、森から聞こえる鳥のさえずり、虫の鳴き声などは変わりなくこの2作目の映画から受け取ることができます。是非劇場にお越しください、その大きなスクリーンと音響効果にてこの変わらない飯舘村の美しい自然に触れて、これからも飯舘村とそこに生きる方たちへの応援としていただきたく心から願います。

私たち映画制作支援の会は、全ての人の尊厳と権利、そして自然環境が守られる社会の実現のために、また、決してこれからも福島・飯舘村を忘れないために、今後も映画を国内外で上映することを目指して活動を継続するつもりです。引き続きのご支援とご協力を改めてお願いし、ご挨拶といたします。



時代を超え残る映画に

古居 みづえ（映画監督・ジャーナリスト）

「飯館村の母ちゃんたち」の第2作「飯館村 ベこやの母ちゃん——それぞれの選択」の劇場公開がいよいよ3月から始まります。その公開を前に、映画完成までの決して平坦とは言えない12年の道のりを古居監督が振り返ります。

◆ベこやの母ちゃんとの運命的な出会い
この度、2011年から撮影を続けてきた「飯館村の母ちゃんたち」の第2作「飯館村ベこやの母ちゃん——それぞれの選択」がやっと完成いたしました。映画は何と12年もかかり、何度も困難な状況に陥りました。

2011年3月の原発事故後、最初に飯館村で出会ったのが、牛飼いの母ちゃんたちでした。長年手塩にかけて育ててきた牛

たちを屠畜するために手放す日に、私はたまたま立ち会うことになりました。そしてそんな辛い日に出会ったのだから、私はずっと母ちゃんたちを撮り続けようと思いました。

◆第1作「土とともに」の完成

2011年、2012年、母ちゃんたちの行動は、休業する、牛を屠畜に出す、避難する、仮設住宅に入るなど変化がありました。



かつて自分たちの牧場があった場所を訪れた信子さん（2011年）

しかし翌年、避難区域の再編が行われると、村民の興味は除染のほうに変わりました。仮設の日常で何を撮っていいのかわからなくなりました。

そんな時、仮設に避難してきた菅野榮子さん、菅野芳子さんに出会いました。仮設の日常生活が、年配の女性たちの話を聞いていたらとても面白く感じたのです。そのまま映画として撮影することになりました。それが第1作の「飯舘村の母ちゃんたち～土とともに」です。

最初の映画が完成し、2011年から取り掛かっていた牛飼いの母ちゃんたちはどうなっていたのか？ 帰村するのかしないのか？ 何とか最後まで撮り続けなければいけない、2021年までの10年間を撮り続けようと思いました。

◆新型コロナの感染拡大で制作中断

ところが2020年から、予想もしていなかった新型コロナの感染が世界的に広がりました。日本国内では、とりわけ感染者の多い東京から感染者ゼロの飯舘村に行くことができず、撮影はストップしました。それでも少し下火になると、毎回PCR検査を受けて村を訪ねるということを繰り返しましたが、10年目はいつの間にか過ぎ去っていました。

撮影がほぼ終わると、次に問題となったのは、編集の構成でした。3人のべこやの母ちゃんの1人を主人公にするか、3人を同じように主人公にするか。前者の場合は2時間ぐらいで収まるけれども、3人を主人公にした場合には3時間～4時間の長さの映画になる。長時間の映画はこの劇場でもやってはくれない等々、なかなか考えがまとまらず、行き詰まりました。映画のアドバイザーの方々や、支援の会の人たちの意見を受け、初心に戻り、この映画は最初から3人を撮影してきたのだから3人を主人公にしよう。時間は長くなるかもしれないが、自分らしい映画を作ろうと決心し、コロナ禍でしたが、精力的に編集者と取り組みました。





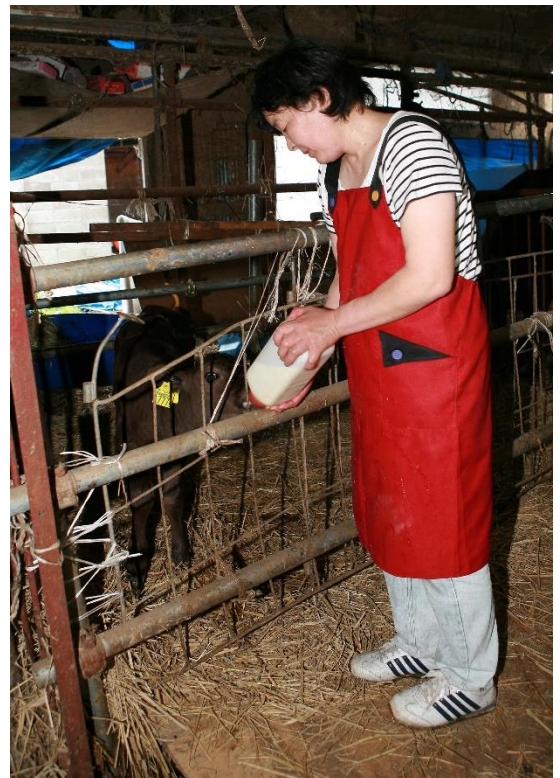
動物はなんでも大好きな公子さんだ。

編集作業と並行して行なっていた 2021 年の最後の撮影で、またしても予期せぬ出来事が起きました。

長谷川花子さんのパートナーの健一さんが 10 月に甲状腺ガンで亡くなったのです。コロナ禍でもあり、頻繁に長谷川家を訪れることもできないうちに、健一さんの病気の進行は早く、思いのほか悪化していました。このまま健一さんのことを入れたいが、3 人の母ちゃんたちがたくましく生きていくという映画のストーリーはどうなっていくのだろうか？ ストーリーを変えていかねばならないのか？ などと悩みました。でもそんな心配をよそに、花子さんは気丈な人でした。後ろを向くのではなく、前を向いて生きておられました。そしてそのまま 3 人の母ちゃんのストーリーになりました。

2022 年末やっと完成いたしました。しかし同時にその頃、今度は私の体がおかしくなっていました。昨年の 10 月末から始まった私の腰痛は足にまで及び、椎間板ヘルニアと診断されました。何とか簡単にすませたいと手術を受けるのは最後まで避けようとして、何度も痛み止めのブ

ロック注射を打ちました。しかし私のヘルニアは複雑で、手術は避けられませんでした。今年に入れば、宣伝や劇場公開の準備が始まる。気が気ではありません。年末年始をはさんで、体が痛みで動かなくなり、1 月半ば手術に踏み切りました。1 月終わり近くなって、退院できました。幸い、あれほど辛かった痛みが取れ、二つ折にしていた身体を起して歩くことができるようになりました。





避難前、酪農婦人会の集まりがあった。左から2番目が信子さん。右端が花子さん

◆みんなで作った映画を見てほしい
この映画は、原発事故から人生が変わった3人の母ちゃんたちの物語です。普段は見せてくれないプライベートな素顔も含めて人生の一部を切り取らせてもらった映画です。母ちゃんたちは撮影させてくれただけでなく、家にまで泊めてくれました。花子さんに「そんなによその人を泊めたり、世話をしたりして大変じゃない？」という人たちもいました。そん

なとき花子さんは「いいや、大変じゃないよ」と言ってくれました。そんなご厚意に報いるためにも、この映画を世に出したいと思えます。

そしてこの映画は支援してくださった人たちのお金で出来た映画です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。支援の会のスタッフたちは、資金を集めるだけでなく、撮影の車の手配、現地の取材にもかかわってくれました。取材後の書き起こしは支援者の方々がボランティアで担っていただきました。

仮の編集が出来上がるとそのたびに映画の感想を述べてもらいました。みんなで作り上げた映画だと思っています。

原発事故から12年目の今、世間ではすでにニュースではなくなっています。12年前に起こったことすら忘れ、原発の再稼働や次世代型の原発建設など叫ばれています。こういう時代にこそ観てほしい映画です。

いつの時代にも残る映画にしていきたい、原発事故の経験のない世代にも伝えられるような映画になってほしいと思えます。

(写真も筆者)





試写会参加者の感想から

2023年1月29日(日)「支援者感謝試写会」を専修大学神田キャンパスにて行いました。東京での開催のため、すべての支援者の方をご招待できず申し訳ありませんでした。劇場公開よりひと足先に「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」をご覧になった皆さまから感想を寄せていただきましたので、いくつかご紹介します。

☆人としての生き方を考えました

3・11後から12年の月日を知って見ると、それぞれの時(過去)の出来事や、母ちゃんたちの気持ち、思いに胸がつかまりました。日々を真剣にまっすぐ生きる姿に、人生や家族を大切に、人としての生き方を改めて振り返り、考えました。

また劇場に友人たちと観にまいります。

(40代)

☆この10年の現実を見てほしい

第1作に引き続き、たくましい母ちゃんの姿は胸に迫るものがあります。

この10年の現実を、原発推進者や施政者にこそ見てほしい。人間のしたことでも理不尽に命を奪われた牛、猫、その他動物たちに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

長尺ですが、自主上映するところが増えてほしいです。

古居監督をはじめ、スタッフの皆さま、素晴らしいドキュメンタリー映画をありがとうございました。(70代)

☆生と死も見て感動しました

それぞれの選択、心に沁みました。はからずも生と死も見せてくださり、感動しました。(70代)

☆力強さに心打たれました

原発事故のもたらした理不尽さに、あらためて憤りを感じました。3人の女性の選ばれた生き方、いずれも、その奥にある悲しみ、悔しさに胸がしめつけられ、でも愛あふれる力強さに心打たれました。(60代)

☆あっという間の3時間

まず、10年以上フィルムを回し続けた古居監督に心から拍手を送ります。

3時間という長い上映、大丈夫だろうかと不安がありましたが、本当にあっという間の3時間でした。

3人の母ちゃんたちの後ろに、何人の女性たちだけでなく、懸命に生きている人たちがいるのかをヒシヒシと感じさせられました。

拍手です。(? 代)

☆母ちゃんたちのストレートな言葉が響いた

第1部、牛を手放すが、元の家を守り、再び土を耕し、新しい作物を作ろうと取り組んでいく姿。悲しみだけでなく、前を向いていこうとする姿。一方で仮設住宅に移り衰弱して亡くなってしまったお母さん、現実にはこのような方は多かったのではと推察する。

第2部、100キロ離れた土地で、牛を育て続けていくことを選んだ。ただただ働き続けることで、苦しみ、悲しみを乗り越えている。

第3部 帰村夫の健一さんが亡くなってしまっ

たことは大変な事実です。

上映時間の長さを感じさせないあっという間でした。

母ちゃんたちの力強さ、土が共にあること、感じました。母ちゃんたちのストレートな言葉が心に響きます。(50代)

☆多くの人に見てもらいたい

言葉にしがたいくらい大きく、重いものを受け取りました。多くの人に見てもらいたいと強く思います。(60代)

☆良い時間をありがとうございました

お三方の12年を見てきて、人によって考え方や決断、想いは異なっているけれど、「生きていく」という強い気持ちが感じられました。当時小学生で、東京でテレビを見て何もできなかった自分が悔しかったことを思い出しました。私にできることはちっぽけかもしれませんが、「伝えていくこと」「忘れないこと」をしっかりと続けようと思います。

とても良い時間でした。ありがとうございました。(20代)

☆寄り添った記録に感謝

それぞれの方の12年。本当によく寄り添って記録されたと観させていただき、感謝！です。本当は、政府の役人や東電社員に見てほしいです。(70代)

☆3人の父ちゃんにも感謝

命の意味を考えさせる美しい映画でした。3人の母ちゃんとともに、3人の父ちゃんにも感謝します。(60代)

※試写会の模様は右のQRコードからご覧になれます。



劇場上映のご案内

2023年3月からいよいよ「飯館村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」の劇場公開が始まります。お近くの劇場に是非足を運んで満席にしましょう！

☆3月11日(土)～17日(金)

東京：[ポレポレ東中野](#) 12時20分～
3月11日(土)12日(日)に舞台挨拶あり。
[登壇者] 古居みずえ監督、中島信子さん、長谷川花子さん(出演者)
料金 一般 2300円
シニア・学生 2000円
電話 03-3371-0088

☆3月18日(土)～24日(金)

神奈川：[横浜シネマリン](#)
21日(火・祝)古居みずえ監督の舞台挨拶あり
電話 045-341-3180

☆3月10日(金)～14日(火)

兵庫：[神戸映画資料館](#) 10時30分～
電話 078-754-8039
料金 一般 2300円
シニア(65歳以上) 2000円
ユース(18歳以下) 1800円

☆3月18日(土)～24日(金)

大阪：[シアターセブン](#)

18日(土)19日(日)古居監督とゲストのトークイベントの予定あり
電話 06-4862-7733

☆3月12日(日)1日のみの特別上映

愛知：[名古屋シネマテーク](#)
電話 052-733-3959

☆3月31日(金)～4月6日(木)

福島：[フォーラム福島](#)
4月1日(土)12時30分の回、上映後舞台挨拶あり
[登壇者] 古居みずえ監督、中島信子さん・長谷川花子さん(出演者)
電話 024-533-1717

※予告編は「ベこやの母ちゃん」公式サイト iitate-bekoya.com や、映画「飯館村の母ちゃん」制作支援の会のサイト iitatekachan.info でご覧になれます。

※どの劇場も WEB、窓口で予約ができますが、期間、料金はそれぞれ異なりますので、直接お問合せください。予約なしでも満席でなければ入場できます。電話で当日券があるかご確認のうえお出かけください。

通信発行：映画「飯館村の母ちゃん」制作支援の会

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1-834 Fax 03-3209-8336

メール iitateka311@bb-unext01.jp TEL 090-7408-5126